

Japanese Utility Model Publication No. 51-46372

Publication Date: November 9, 1976

Laid-Open Publication No. 49-4474

Laid-Open Date: January 15, 1974

Japanese Utility Model Application No. 47-42682

Filing Date : April 10, 1972

Inventor: Shinichi Aoki

Applicant: Shinichi Aoki

Garbage Bag

Side-gusseted trash bags of the present design are formed of paper, nonwoven fabric etc., including a garbage bag having a thin metal ribbon or wire 2 provided along the opening edge 3 of each side face. The garbage bag is capable of keeping their opening wide until they are full because of the thin metal ribbon or wire 2 provided along the opening edge 3 of each side face. The bag is designed to be closed by bending the thin metal ribbon or wire 2.

⑪Int.Cl.²

B 65 F 1 / 00
B 65 D 33 / 30

⑫日本分類

92(7)B 2
132 B 315

⑬日本国特許庁

⑭実用新案出願公告

昭51-46372

実用新案公報

庁内整理番号 6748-34

⑮公告 昭和51年(1976)11月9日

(全3頁)

1

⑯ごみ袋

- ⑰実 願 昭47-42682
⑱出 願 昭47(1972)4月10日
公 開 昭49-4474
⑲昭49(1974)1月15日
⑳考 案 者 出願人に同じ
㉑出 願 人 青木伸一
芦屋市朝日ヶ丘440の26
㉒代 理 人 弁理士 三枝英二
(公害防止関連技術)

㉓実用新案登録請求の範囲

紙、不織布製シート等の外力を加えない状態で直状形態を保持するような強さの腰を持ったシートからなり且つその左右側壁に折りひだ1, 1を形成したごみ袋に於て、薄い金属帯板或いは針金2, 2が上記折りひだ1, 1付左右側壁の袋口縁部3に沿つて取付けられており、該薄金属帯板或いは針金2, 2はその両端部が上記袋の端より外方へ突出するか、或いは該金属帯板或いは針金2, 2を二つ折りに折曲げて更にそれを折曲し得る長さを有しているごみ袋。

考案の詳細な説明

本考案はごみ袋、特に紙、不織布製で且つその左右側壁に折りひだを有するごみ袋に関する。

一般にごみ袋はごみを収納しない状態即ち非使用時の運搬や収納等を容易にするために、袋の左右側壁に折りひだを形成し、袋を扁平に折畳むことを必要とされている。しかし乍ら、このような折りひだは袋が紙、不織布等でつくられている場合には、袋に上記扁平折畳に従い袋の口が閉鎖する傾向を生ずるので、袋に対するごみの投棄を困難にする欠点がある。

本考案は紙、不織布製で且つ左右側壁に折りひだを有するごみ袋の上記問題を克服し、ごみ袋使用時に袋の口を拡開した状態に安定して保持することができ、しかも収容したごみをこぼれないよ

2

う袋口部を簡潔に封緘し得るごみ袋を提供することを目的としている。

本考案の更に重要な目的は、上記袋口の拡開状態下での保形及び封緘を専用の部材によることなく同じ部材により簡潔に行い得るごみ袋を提供することにある。本考案の他の目的は以下の記載によりこれを明かにする。

本考案のごみ袋は、紙、不織布製シート等の外力を加えない状態で直状形態を保持するような強さの腰を持ったシートからなり且つその左右側壁に折りひだ1, 1を形成したごみ袋に於て、薄い金属帯板或いは針金2, 2が上記折りひだ1, 1付左右側壁の袋口縁部3に沿つて取付けられており、該薄金属帯板或いは針金2, 2はその両端部が上記袋の端より外方へ突出するか、或いは該金属帯板或いは針金2, 2を二つ折りに折曲げて更にそれを折曲し得る長さを有していることによつて特徴づけられる。

尚、上記金属帯板或いは針金2, 2の取付けは例えば接着剤による等それ自体公知の適宜手段により行えばよい。

本考案ごみ袋は上述のような構造を有するから袋内にごみを投棄するに際し、袋がその折りひだ1付側壁に於て扁平に折畳まれている場合には、袋口縁3の折りひだ1, 1付左右側壁上の薄い金属帯板或いは針金2を真直或いはそれに近い状態に伸ばることにより、袋口縁3を第1図に示すような拡開状態に保持することができる。しかもこの場合、袋が紙、不織布製シート等の外力を加えない状態下で直状形態を保持するような強さの腰を持ったシートからなっているため、上記薄金属帯板或いは針金2, 2を取付けた袋側壁には該薄金属帯板或いは針金2, 2のない個所に或る程度の折りくせが残存して、該側壁が横断面〵状の屈折状態となり、それによつて袋の縦方向に於ける座屈強度が大となる。

従つて本考案によれば、袋を使用に際し筒状に拡げた場合、これを崩折れない状態下に床面其他

3

4

の適当な場所に据えることができ、袋へのごみの投棄を極めて容易に行うことができる。このごみの投棄は袋の底を平坦にしておくことにより一層容易となる。何故ならば、袋の底を平坦にしておけば袋底部に対する保形性を上記平坦底によつて附与でき、このことと上記薄金属帯板或いは針金2, 2による袋口縁3に対する拡開状態の保持及び折りひだ1付側壁の折りくせ残存による袋縦向に於ての大なる座屈強度とにより袋を全体として筒状に拡開した状態下にこれを保持し得る効果が向上されるからである。更にまたこのようにしておく、袋を筒状に上げてくずおれることなく立て据えることができるので、筒状に上げたごみ袋を適当な個所に置き、袋そのまゝでごみ入れ容器として使用に供し得る利点がある。この場合、袋の折りひだ1, 1付左右側壁の下端寄りの個所にも薄金属帯板或いは針金2, 2と同様な部材2', 2'を取付けておく時、袋底部の筒状化に於ける保形性及び袋の据立の安定性は更に向上される。尚これ等上側ならびに下側の薄金属帯板或いは針金2, 2, 2', 2'はそれぞれの前後端適当長さに亘る部分を袋の端より外方へ突出させると共に、その突出部分の下縁に凹部4, 4, 4', 4'を形成しておき、適当な棒状スタンド(図示せず)に上記凹部4, 4, 4', 4'に於てごみ袋を掛架するのに役立ててもよい。

本考案のごみ袋は袋口縁の薄金属帯板或いは針金2, 2を利用して袋口縁3の封緘を簡潔に行うことができる特徴がある。詳しくは、袋内にごみが一ぱいになると、薄金属帯板或いは針金2, 2を第1図の状態から第2図に示すように該薄金属

帯板或いは針金2, 2を取付けた個所の袋側壁上縁と共に二つ折りに折曲げ、その折曲げた薄金属帯板或いは針金2, 2が巻込まれるよう袋口縁部を第3図に示すように適当回数巻き或いは折曲げて袋口部を閉じた後、その閉鎖した袋口部の両端部を上記薄金属帯板或いは針金2, 2と共に袋口部の長さの方向へ折曲げ(薄金属帯板または針金2, 2の両端が袋の端より外方へ突出されていない場合)、或いは第4図に示すように薄金属帯板または針金2, 2の先端部のみを袋口部の長さの方向へ折曲する(薄金属帯板または針金2, 2の両端部が袋の端より外方へ突出されている場合)ことにより、袋口部を封緘することができる。

即ち、本考案に於ける袋口縁の薄金属帯板或いは針金2, 2は袋口縁を開いた状態でこれを保持する役割と、袋口縁を封緘する役割とを果たし、袋口の拡開状態保持ならびに封緘を専用部材によることなく同じ部材により簡潔に行い得る利点がある。

20 図面の簡単な説明

第1図は本考案ごみ袋の好ましい1実施形式を示す斜面図にして袋口部を開いた状態を示している。第2図は袋口部を閉鎖した状態を示す斜面図、第3図は袋口部を閉鎖後更に巻いた状態を示す斜面図、第4図は袋口部の封緘完了状態を示す斜面図である。

1は折りひだ、2は薄い金属帯板、3は袋口縁。

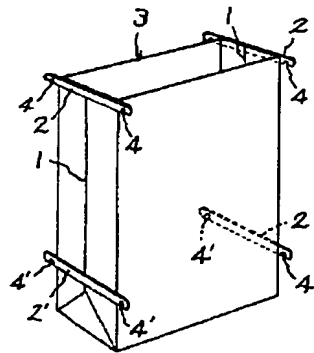
30 ⑤引用文献

実 公 昭39-14074

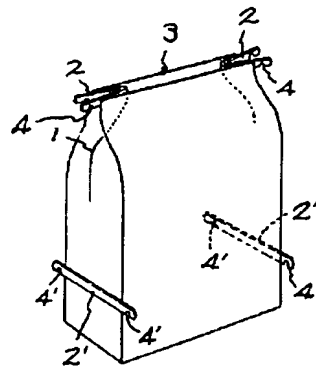
(3)

実公 昭51-46372

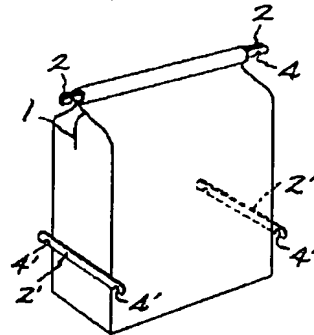
才1図



才2図



才3図



才4図

